

第 2 期総合戦略の評価

目 次

「基本目標」及び「数値目標」	1
基本目標Ⅰ 若者がチャレンジできるまち	3
Ⅰ-1 地元産業力の強化	4
Ⅰ-2 労働供給力の開拓	11
基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち	13
Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14
Ⅱ-2 「創造都市・浜松」を担う次代の育成	19
基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち	23
Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり	24
Ⅲ-2 にぎわいの創出	29
Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成	37
Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり	44
Ⅲ-5 持続可能な都市経営	47

「基本目標」及び「数値目標」

基本目標Ⅰ 若者がチャレンジできるまち

数値目標	基準値 (時点)	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	目標値 (R6)
①満足いく雇用機会に恵まれていると思う人の割合 (市民アンケート調査)	24.6% (2019/R1)	19.0%	17.2%	18.1%	21.2%	30.0%
②市内総生産額	3兆0222億円 (2016/H28) ※2	3兆1413億円 ※3	R6年12月 予定	R7年9月 予定	R8年9月 予定	3.3兆円以上 ※1

※1 「平成23年度しずおかけんの地域経済計算」に基づく数値。(総合計画記載値)

※2 「平成28年度浜松市の市民経済計算」に基づく数値。

※3 「令和2年度浜松市の市民経済計算」に基づく数値。

基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち

数値目標	基準値 (時点)	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	目標値 (R6)
①合計特殊出生率 ※4	1.51 (2018/H30)	1.41	1.37	1.35	1.27 (概数)	1.84
②子どもを生き育てやすい環境が整っていると思う人の割合 (市民アンケート調査)	21.5% (2019/R1)	24.3%	22.1%	21.4%	19.6%	50.0%

※4 住民基本台帳による日本人の年齢別女性人口を用いて算出。

基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

数値目標	基準値 (時点)	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	目標値 (R6)	
①住んでいる地域が住みやすいと思う人の割合 (市民アンケート調査)	58.7% (2019/R1)	60.2%	60.9%	62.1%	59.5%	65.0%	
②健康寿命 ※5	男性	73.19歳 (2016/H28)	-	73.74歳 (2019年)	-	-	73.98歳
	女性	76.19歳 (2016/H28)	-	76.65歳 (2019年)	-	-	76.94歳

※5 厚生労働省研究班による政令指定都市・特別区の健康寿命データに基づく。

基本目標 I 「若者がチャレンジできるまち」

評価結果 **B** 指標達成率の平均 **88%**

★評価基準： 指標達成率100%…A、60%以上100%未満…B、60%未満…C

No.	施策	指標達成率	評価
1(1)ア	「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援	99%	B
1(1)イ	“やрмаいか精神”が根付く地場産業の支援	—	—
1(1)ウ	地域が観光で稼ぐ力を強化することによる観光関連産業の主要産業化	84%	B
1(1)エ	農林水産業のスマート化、多角化などの推進	88%	B
1(1)オ	天竜材のブランド力強化及び流通拡大	99%	B
1(2)ア	海外の活力を取り込むビジネス展開支援	—	—
1(2)イ	新たなリーディング産業となる企業の誘致推進	100%	A
1(2)ウ	農林水産物の海外販路開拓	31%	C
1(3)ア	ベンチャー支援	100%	A
1(3)イ	創業希望者への相談・情報提供の推進	100%	A
1(3)ウ	新規就業者などへの支援	100%	A
1(4)ア	農地の流動化による有効利用の推進	80%	B
1(4)イ	多様な担い手の育成	95%	B
1(5)ア	浜松版スマートシティの実現	75%	B
1(5)イ	地域特性を活かしたエネルギー自給率の向上	—	—
2(1)ア	UIターン・地元就職支援	90%	B
2(2)ア	女性の就労支援	100%	A
2(2)イ	外国人の就労支援	46%	C
2(2)ウ	70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の就労環境整備）	98%	B
2(2)エ	就職を希望する人への就労支援	100%	A
2(3)ア	働き方改革等の推進	99%	B

基本目標 I 若者がチャレンジできるまち

I-1 地元産業力の強化【産業部】

(1) イノベーションの連鎖を生み出す新産業の創出と既存産業の高度化

◆「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援

産業イノベーション推進事業

◆“やрмаいか精神”が根付く地場産業の支援

地域産業振興支援事業

(2) 海外展開支援と集積による地域企業活性化

◆海外の活力を取り込むビジネス展開支援

海外ビジネス展開支援事業 産業イノベーション推進事業

◆新たなリーディング産業となる企業の誘致推進

企業立地推進事業 新・産業集積エリア整備事業

(3) ベンチャー支援、新規創業・就業のチャレンジサポート

◆創業希望者への相談・情報提供の推進

創業支援事業

【評価】

2021年10月に第2期はままつ産業イノベーション構想を策定し、本市の産業政策のビジョンを示すとともに、地域企業に対し、イノベーション推進支援・企業集積支援・市場創出支援など新産業創出に向けた事業を（公財）浜松地域イノベーション推進機構と連携して実施した。これにより地域企業の新事業展開や自動車の電動化への取組みが進展していると評価している。

また、企業立地決定件数及び新規雇用人数は、ともに目標値を上回る実績をあげており、企業立地の促進及び雇用機会の拡大の観点から、地域産業の振興及び経済の発展に大変寄与していると言える。

【今後の方針】

引き続き、（公財）浜松地域イノベーション推進機構と連携し、人口減少・高齢化に加え、カーボンニュートラルなどの新しい社会課題に着目しながら、新産業創出に向けた支援を行うとともに、自動車の電動化対応については、取組みが遅れている小規模・零細企業向けの充実を図り、サプライチェーンの基盤強化とともに事業承継支援を推進していく。

引き続き新たなリーディング産業の企業誘致活動を行うとともに、産業用地の整備やICT企業の誘致による地域産業のDX推進及び多様な雇用の場の創出を推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
粗付加価値額（従業員 10 人以上の事業所）	百万円	675,689	680,418	685,181	689,978	694,807	699,671
		(2019 年)	646,324	671,765	751,650	2025.7 確定	—
新技術・新製品開発などの事業化件数【累計】	件	232	297	332	404	476	549
		(2018 年度末)	328	387	435	473	—
自動車の電動化等への取組レベル向上社数【累計】	社	7	27	37	47	57	67
		(2018 年度末)	53	69	102	134	—
展示会出展支援企業の成約件数	件	—	—	50	50	50	50
		—	—	47	38	98	—
海外ビジネスセミナー聴講者数	人	57	100	100	100	100	100
		(2019 年)	156	140	98	126	—
見本市出展企業の成約件数	件	35	30	35	40	45	50
		(2018 年度)	—(見本市中止のため出展なし)	—(見本市出展見送りのため実績なし)	—(見本市出展見送りのため実績なし)	—(見本市出展見送りのため実績なし)	—
海外展開企業数	社	130	131	132	133	134	135
		(2019 年度末)	121	116	—(県調査中止)	—(県調査中止)	—
創業支援事業に伴う新規創業者数（法人＋個人）【累計】	人	1,075	1,785	2,155	2,535	2,925	3,325
		(2018 年度末)	1,810	2,175	2,650	3,167	—
企業立地決定件数【累計】	件	96	136	156	176	196	216
		(2018 年度末)	148	167	187	199	—

I-1 地元産業力の強化【産業部 観光・ブランド振興担当】

(1) イノベーションの連鎖を生み出す新産業の創出と既存産業の高度化

◆地域が観光で稼ぐ力を強化することによる観光関連産業の主要産業化

浜松・浜名湖 DMO 形成支援事業 観光客誘客事業

【評価】

新型コロナウイルスの影響により観光交流客数が大幅に減少したが、DMO である(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューローを中心に、マイクロツーリズムなどの新たな観光需要の創出に取り組んだ。2023 年大河ドラマ「どうする家康」の放送や 2024 年浜名湖花博 20 周年記念事業を契機として、官民連携により浜松・浜名湖のブランドの確立に努め、観光誘客を実施した。

【今後の方針】

引き続き、DMO とともに観光マーケティングを実施し、ガストロノミーや農業・産業観光、花・自然環境など本市の魅力を生かした新たなコンテンツを造成するとともに、旅行者に合わせた戦略的な情報発信により観光誘客を促進する。ユニークベニューの開発、コンベンションなどの MICE 誘致を推進する。観光関連事業者と連携し地域資源を魅力ある観光資源として磨き上げ、観光客の滞在期間の長期化や旅行消費額の向上を図り、地域が観光で稼ぐ力を強化する。

【重要業績評価指標 (KPI)】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
一人当たりの旅行消費額 (宿泊)	円	25,537	33,000	34,000	35,000	36,000	36,000
		(2018 年度)	22,588	27,342	27,719	30,497	—

I-1 地元産業力の強化【産業部 農林水産担当】

(1) イノベーションの連鎖を生み出す新産業の創出と既存産業の高度化

◆農林水産業のスマート化、多角化などの推進

もうかる農業推進事業	低コスト林業推進事業	林業成長産業化推進事業
木材需要拡大事業	水産業振興事業	

◆天竜材のブランド力強化及び流通拡大

森林管理事業	木材需要拡大事業	森林経営管理推進事業
--------	----------	------------

(2) 海外展開支援と集積による地域企業活性化

◆海外の活力を取り込むビジネス展開支援

もうかる農業推進事業

◆農林水産物の海外販路開拓

もうかる農業推進事業	木材需要拡大事業
------------	----------

(3) ベンチャー支援、新規創業・就業のチャレンジサポート

◆新規就業者などへの支援

担い手育成支援事業	林業従業者助成事業（補助金）
-----------	----------------

(4) 担い手第一主義の農林水産業振興

◆農地の流動化による有効利用の推進

農地の確保と有効利用事業	優良農地の確保推進事業	もうかる農業推進事業
担い手育成支援事業	国・県施行事業	かんがい排水整備事業
農道整備事業	農業基盤国庫補助事業	

◆多様な担い手の育成

もうかる農業推進事業	市民に親しまれる農業推進事業	漁港管理事業
水産業振興事業		

【評価】

農林業の新規就業希望者への支援により、計画を上回る就業者数の確保を図った。また、省力化等が図られる機械等の購入を支援するとともに、農林水産業へのスマート技術導入を促進し、生産性の向上に取り組んだ。

販売力の強化に向けた認知度向上においても、「浜松パワーフード宣言・応援宣言 認定事業者」数は計画を上回り、浜松市産農林水産物の魅力発信が図られた。

さらに、本市林業の強みである「FSC®森林認証」の面積は、計画に基づく適正な森林管理を行うことで毎年増加している。

【今後の方針】

農業分野では、「産業政策：持続可能で発展する農業の確立」と「地域政策：農村の保全・振興」の両輪により“もうかる農業”を推進する。林業分野では、「FSC®森林認証」のさらなる認知度と付加価値の向上を図り、育てる林業から売る林業への進化を目指す。水産業分野では、水産資源の管理・保全を進めるとともに販売力強化を図り、水産業の安定的発展を推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
スマート農業推進事業費 補助金実施事業数（累計）	件	新規	5	15	25	25	25
		(2022年度)	9	18	29	36	—
木材生産量	m ³	118,000	150,800	158,400	166,000	173,600	181,200
		(2018年度)	109,624	121,673	121,992	111,749	—
浜松パワーフード宣言・ 応援宣言 認定事業者数	事業者	60	200	300	400	500	1,300
		(2018年度)	192	240	265	1,284	—
農林漁家民宿 宿泊者数	人	431	700	750	800	850	900
		(2018年度)	297	363	446	551	—
FSC 認証材生産量	m ³	67,048	111,000	119,000	127,000	135,000	143,000
		(2019年度)	59,550	65,568	57,170	62,198	—
FSC 森林認証面積	ha	48,542	48,900	49,200	49,500	49,800	50,100
		(2019年度)	49,130	49,441	49,538	49,703	—
天竜材の利用拡大に向けた 連携を行う都市・団体数	都市・ 団体	3	4	5	5	5	6
		(2019年度)	5	5	5	5	—
輸出成約事業者数	事業者	14	16	18	20	22	24
		(2019年度)	7	13	7	7	—
認定新規就農経営体数 (累計)	経営 体	59	67	75	83	91	99
		(2019年度)	65	76	100	109	—
新規就業者（林業）支援対 象者（累計）	人	66	86	106	126	146	166
		(2019年度)	89	114	138	163	—
担い手への農地集積率	%	31	41	44	47	50	53
		2018年度	35	37	37	40	—
農業経営塾塾生（累計）	人	45	55	70	70	85	100
		(2019年度)	55	71	71	78	—
ユニバーサル農業シンポ ジウム参加者数（累計）	人	101	200	300	400	500	600
		(2019年度)	220	359	471	544	—

I-1 地元産業力の強化【産業部 スタートアップ推進担当】

(2) 海外展開支援と集積による地域企業活性化

◆新たなリーディング産業となる企業の誘致推進

首都圏ビジネス情報センター事業

(3) ベンチャー支援、新規創業・就業のチャレンジサポート

◆ベンチャー支援

スタートアップ誘致事業 スタートアップ支援事業

【評価】

これまでの間、すべての年度において計画値を上回る実績を残すことができた。
スタートアップ支援事業では「ファンドサポート事業」、「スタートアップ成長支援事業」、「実証実験サポート事業」等を通じて、新たなスタートアップの創出や成長支援、資金調達環境の整備などに取り組んだ。
スタートアップ誘致事業では「首都圏ビジネス情報センター」、「サテライトオフィス運営事業」等を通じて、地域産業に活力をもたらすスタートアップの誘致に取り組んだ。
これらにより、スタートアップが生まれ・育ち・集まるスタートアップ・エコシステムの構築に向け、取り組みを前進させることができた。

【今後の方針】

引き続き、スタートアップ・エコシステムの構築に向け、各種取り組みを実施する。
スタートアップの創出や成長支援に取り組むとともに、今後は、優れた技術を持つ地域企業との連携によるイノベーションの創出や高校生・大学生といった次世代人材の育成にも積極的に取り組んでいく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
首都圏等から誘致したベンチャー企業数	社	4	4	6	8	10	12
		2019.9	25	19	19	14	

I-1 地元産業力の強化【カーボンニュートラル推進事業本部】

(5) 浜松版スマートシティの推進

◆浜松版スマートシティの実現

スマートシティ推進事業

◆地域特性を活かしたエネルギー自給率の向上

スマートシティ推進事業

【評価】

(株)浜松新電力や「浜松市スマートシティ推進協議会」等と連携し、「夢プロジェクトさくま」や「浜北区役所跡地等スマート化事業」など9つのスマートシティプロジェクトを創出した。また、全国トップクラスの日照時間を活かした太陽光発電を中心とした再エネの導入促進、家庭、事業活動における省エネの推進などの取組によりエネルギー自給率は向上した。

【今後の方針】

「浜松市カーボンニュートラル推進協議会」を通じて、地域内外の企業・団体・研究機関などと新たな脱炭素関連技術やサービス、プロジェクトの創出などに向け、シーズ・ニーズのマッチングやワーキンググループ・研究会活動、プロジェクトの実証などを実施する。また、(株)浜松新電力による再生可能エネルギーの地産地消とエネルギーの地域内経済循環を推進する。

【重要業績評価指標 (KPI)】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
スマートシティプロジェクトの創出件数（累計）	件	8	10	10	12	12	12
		(2018年度)	9	9	9	9	—
エネルギー自給率	%	14.9	16.0	16.3	16.5	16.8	21.5
		(2018年度)	17.7	18.1	18.9	2025年5月頃	—

I-2 労働供給力の開拓【産業部】

(1) 次代の産業人材の確保

◆UIJターン・地元就職支援

雇用促進事業

(2) すべての人が活躍できる就労支援

◆女性の就労支援／◆外国人の就労支援／◆70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の就労環境整備）

雇用促進事業

(3) 誰もが働きやすい雇用環境の整備

◆働き方改革等の推進

雇用促進事業

【評価】

人手不足が地域企業の課題となる中、若年者、女性、高齢者、外国人などの就労を促進するため、求職者側、企業側の両面に対する支援施策を実施するとともに、高齢者をはじめとする全ての労働者が働きやすい環境を整備するため、高齢者活躍・ワークライフバランス認証を推進した。これらの取り組みが、地域企業の産業人材の確保につながっていると評価している。

【今後の方針】

地域産業の持続的な成長のため、産業人材の確保に取り組むとともに、若年者、女性、高齢者、障がい者、外国人等、働くことを希望する方の活躍を促していく。また、人材の確保と定着を図るため、企業が推進するワークライフバランス等の取組を促進し、心身ともに健康を維持しながら、能力を発揮できる職場環境の実現していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
マッチングアドバイザー派遣事業による内定者数	人/年度	39	70	110	150	150	150
		(2018年度)	200	181	136	136	—
支援女性の就業率	%	41	42	44	46	48	50
		(2018年度)	43	44	50	55	—
インターンシップフェアへの外国人留学生参加者数	人/年度	17	20	25	25	30	30
		(2019年度)	WEB開催のため不明	40	30	14	—
高齢者活躍宣言事業所認定数	社	52	55	90	110	120	130
		(2019年度末)	79	105	115	124	—
ワーク・ライフ・バランス等推進事業所認証事業所数	社	88	95	120	130	140	150
		(2019年度末)	107	117	129	139	—

I-2 労働供給力の開拓【健康福祉部】

(2) すべての人が活躍できる就労支援

◆70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の就労環境整備）

シルバー人材センター支援事業

◆就職を希望する人への就労支援

障害者就労支援事業

障害者自立支援給付事業

【評価】

高齢者の就労環境整備としてシルバー人材センターへの支援を行っている。コロナ禍において会員数の減少が見られたが、2023年度はセンターの積極的な広報活動もあり持ち直している。

障害者就労支援として、企業等に対し、能力に適した職務の選定や受入体制等についての継続的な助言及び支援を行うことや、企業等が障害者雇用における先進企業の取り組み等を知る機会を設けることができた。また、障がいのある人が、実際に障がいのある人が働いている姿を見ることで、就労の意欲を高めることができた。

【今後の方針】

高年齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づき、高齢者の知識や技能を活かした就業活動を推進するシルバー人材センターに対し、活動支援を継続していく。

障がいのある人が地域でいきいきと安心して生活を送ることができるよう、就労支援施設等から一般就労への移行を推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
シルバー人材センター 会員数	人	4,519	4,565	4,590	4,615	4,640	4,665
		(2018年度)	4,402	4,370	4,403	4,503	—
障害者就労支援施設から 一般就労への移行者数	人	150	174	189	204	219	234
		(2018年度)	140	176	179	241	—

基本目標 II 子育て世代を全力で応援するまち

II-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援【健康福祉部 医療担当】

(1) 結婚・妊娠の希望を全力で応援

◆結婚・妊娠に対する前向きな機運の醸成

母子衛生教育事業

◆不妊に対する包括的な支援

母子医療費等支援事業

(2) 安心して出産・子育てできる環境づくり

◆母子の健康の保持・増進

妊産婦乳幼児健康診査事業

母子相談事業

母子訪問指導事業

母子予防接種事業

歯科保健事業

(3) 待機児童の解消と子育て支援の充実

◆子育てに対する不安や負担の軽減

母子医療費等支援事業

【評価】

不妊に悩む女性とパートナーに対し、不妊治療にかかる費用を助成することで、子どもを持ちたいという希望が叶うよう支援をした。また、思春期教室や未来のパパママ講座等で、若い世代の男女に早い時期から妊孕性について周知啓発をし、20歳～34歳に妊娠した人の割合は72%前後、特定不妊治療開始時平均年齢は概ね35歳前後で推移した。

妊産婦乳幼児健康診査や、はじめてのパパママレッスン、産後ケア事業を拡充するとともに、教室等における予約システムの導入やオンラインを活用した各種教室の開催、妊産婦のメンタルヘルスに対する支援等に取り組み、地域のネットワークを活用することで安心して出産・子育てができる環境づくりを推進し、妊娠・出産の支援に満足している人の割合は、概ね計画値通りの実績となった。

【今後の方針】

すべての妊婦・子育て世帯が安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠期から子どもが大人になるまでの様々なニーズに対応するため、関係機関と連携し、妊娠から出産・子育ての切れ目のない支援や、プレコンセプションケアの取り組みを一層推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
全妊婦の内、20歳～34歳に妊娠した人の割合	%	74.4	75.2	75.4	75.6	75.8	76.0
		(2018年度)	71.1	71.7	71.5	72.4	—
特定不妊治療(初回)治療開始時平均年齢	歳	34.8	35歳未満	35歳未満	35歳未満	35歳未満	35歳未満
		(2018年度)	34.9	35.5	35.1	30.5	—
不妊治療費(先進医療費)助成者における妊娠届出率	%	49.9	—	—	—	—	50%以上
		(2019-2021平均)	—	—	—	—	—
妊娠・出産の支援に満足している人の割合	%	91.2	91.4	91.6	91.8	92.0	92.2
		(2018年度)	90.6	91.9	90.9	90.4	—

Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援【こども家庭部】

(1) 結婚・妊娠の希望を全力で応援

◆結婚・妊娠に対する前向きな機運の醸成

子育て家庭支援事業

(3) 待機児童の解消と子育て支援の充実

◆保育施設・放課後児童会の拡充

私立保育所等助成事業

◆地域の子育て力の向上

子育て家庭支援事業

◆子育てに対する不安や負担の軽減

子ども・若者プラン推進事業 子育て家庭支援事業

発達相談支援事業

子育てワンストップサービス運用事業 家庭福祉支援事業

交通遺児等福祉事業等基金積立金

こども保護対策事業

児童福祉施設整備助成事業（補助金）

社会的養護推進事業

ひとり親家庭等支援事業

女性相談保護事業

子供の未来応援地域ネットワーク支援事業

【評価】

結婚を希望する方への出会いの機会の創出や結婚相談に取り組むとともに、結婚新生活に係る費用を支援し、経済的負担の軽減を図った。

「第2期浜松市子ども・若者支援プラン」に基づき、認定こども園や保育所等の創設、保育士確保対策などにより定員を確保し、2021年4月に保育所等利用待機児童数ゼロを達成し、2024年4月までゼロを維持している。

子ども医療費の助成、多子世帯の保育料軽減、訪問支援事業の拡充などにより、子育てに対する経済的負担や心理的不安の軽減を図った。

子ども食堂への助成や学習支援教室の実施など、子育て世帯を地域で支えるこどもの居場所づくりを支援した。

子育てワンストップ窓口「こども家庭センター」を市内7ヶ所に開設し、妊産婦や子育て世帯等への包括的な相談支援体制を構築した。

【今後の方針】

結婚支援や子育て支援など、少子化対策に資する事業を拡充し、国の動向や地域のニーズ・実情等を踏まえ、効果的な施策を市内の幅広い分野が連携して推進する。

多様化する保育ニーズに対応した適切な定員を確保するとともに、保育士等の負担軽減や確保対策に取り組み、待機児童ゼロの維持や安全安心で質の高い幼児教育・保育環境を提供する。

こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するとともに、ライフステージに応じた切れ目のない支援に取り組み、安心して出産や子育てができる環境を整備する。

こどもや若者の多様なニーズを踏まえた、居場所づくりを支援する。

こども家庭センターが、地域の支援機関をはじめ関係機関と連携を更に強化し、支援を必要とするこどもや妊産婦、子育て世帯等に対して、様々な支援メニューに繋ぐなど伴走型の支援を実施し、当事者が抱えるリスクを早期に把握して問題の重篤化を防ぐ。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
保育所など利用待機児童数 (翌年度4月1日時点)	人	31	0	0	0	0	0
		(2019.4.1)	0	0	0	0	—
地域子育て支援拠点延べ 利用者数(年度)	人	321,846	369,500	369,500	369,500	369,500	369,500
		(2018年度)	111,746	191,143	235,541	265,466	—
子育て中の市民が「子育て てしやすくなっている」 と感じる割合	%	49.8	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0
		(2019年度)	47.0	37.5	33.1	31.3	—
学習支援事業の実施箇所数	箇所	17	21	21	26	29	33
		(2019年度)	21	21	26	28	—

Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援【学校教育部】

(3) 待機児童の解消と子育て支援の充実

◆保育施設・放課後児童会の拡充

放課後児童会健全育成事業

◆子育てに対する不安や負担の軽減

就学援助事業（小学校費・中学校費） 発達支援教育推進事業

生徒指導事業

教育相談推進事業

【評価】

放課後児童会の定員を1,345人確保したが、ニーズの増加などから本年5月1日現在、202人の待機児童が生じている。待機児童解消に向けて、専用施設の整備や余裕教室の活用に加え、放課後児童会の新規開設や、夏休みにおける預かりなど、民間活力導入を促進するため、補助基準額を拡充した。

経済的困難を抱える家庭に対して、新入学に係る学用品をはじめ、学校生活で必要となる学用品や校外活動費、給食費等の支給を行い、適切な教育機会を確保した。

【今後の方針】

放課後児童会の利用ニーズは高い状況が続くと予測されることから、待機児童が発生している児童会を中心に余裕教室等の活用促進を図るとともに、民間活力の導入により子どもたちの安全・安心な居場所の確保に取り組む。

家庭の経済状況によらず全てのこどもに適切な教育機会を提供するため、引き続き就学に要する費用の支給や相談体制の充実に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
放課後児童会利用待機児童数	人	471	0	0	0	0	0
		(2019.5.1)	343	261	190	202	—

Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援【健康福祉部】

(3) 待機児童の解消と子育て支援の充実

◆子育てに対する不安や負担の軽減

障害児自立支援給付事業 障害児地域生活支援事業 重度障害児医療費助成事業
障害児福祉手当等給付事業 障害児施設運営事業

【評価】

障がいのある子どもや発達に課題のある子どもの増加により高まる障害児通所支援事業の利用ニーズに対応し、サービスを提供することができた。

障がい等のある子どもが適切な支援を受けられるよう、障害児支援を行う事業所に対して、人員配置や支援内容についての指導を行うことで事業所の質の向上を図った。

保育所等の職員に対して、発達障害のおそれのある子どもの見立てや対応についての助言を行うことで、保育所等職員の資質向上を図った。

【今後の方針】

障がいのある子どもに対し、障がいの特性に応じた必要なサービスを適切に提供できるよう努める。

また、増加している医療的ケア児や重症心身障害児がライフステージに応じた支援が受けられるよう、関係機関との連携を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅱ-2「創造都市・浜松」を担う次代の育成【市民部 文化振興担当】

(1) 第2・第3のノーベル賞受賞者の育成

◆子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実

生涯学習機会提供事業

◆子どもの興味を引き出す機会の充実

図書館運営事業

生涯学習施設運営事業

芸術文化人材育成事業

学習会開催等連携事業

(2) 地域力を活かした市民総がかりのひとづくり

◆学校・家庭・地域の連携による学校づくり

文化財活用地域連携事業

【評価】

産学官連携による特別課外講座（浜松 IT キッズプロジェクト、ダヴィンチキッズプロジェクト）、ワールド・ロボット・オリンピアド全国大会（2022年）の開催、アクトシティ音楽院事業、こども音楽鑑賞教室、学校図書館運営支援、移動博物館、文化財の次世代継承活動への支援を実施するなど、多様化する子どもたちの学習ニーズ、興味に応じた学習機会を提供した。

【今後の方針】

今後も、特別課外講座の開催、音楽に触れる機会の提供、文化財を保護・継承する人材の育成、学習の拠点となる施設でのこどもの興味を引き出す取り組み等を推進し、地域や学校と連携し、今後の社会を担う子どもたちの学習機会の充実を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
全国レベルのコンテスト 入賞者数	人	12	14	18	22	33	34
		(2018年度末)	17	21	30	41	—
生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心が満たされていると思う人の割合	%	33.1	33.0	33.0	34.0	34.0	35.0
		(2019年度)	30.5	32.7	29.2	29.5	—

Ⅱ-2「創造都市・浜松」を担う次代の育成【学校教育部】

(2) 地域の力を活かした市民総がかりのひとづくり

◆学校・家庭・地域の連携による学校づくり

コミュニティ・スクール推進事業 はままつづくりネットワーク推進事業 夢育やらまいか事業
理科・ものづくり教育支援事業

◆郷土愛をはぐくむ教育の実践

夢育やらまいか事業

◆子ども一人ひとりに応じた支援体制の整備

不登校児支援推進事業 教職員管理運営経費 生徒指導事業
外国人子供教育支援推進事業 発達支援教育推進事業 教職員研修事業

【評価】

2024年度までに全ての市立小中学校がコミュニティ・スクール導入校となり、家庭や地域と連携したその学校ならではの特色ある教育活動などにより、郷土を愛するこどもの育成が図られている。

まなびの教室の拡充(校内50か所、校外10教室)をはじめ、発達支援教室の拡充(117教室)や初期日本語指導拠点校の設置(2か所)に加え、不登校児童生徒の孤立や学びの保障に向けたオンラインの活用など、多様な教育的ニーズに応じた支援体制を整備した。

【今後の方針】

各学校運営協議会の質的向上と自立的な運営に向け、引き続き関係者への研修や各学校への指導・助言などにより、学校・家庭・地域が連携・協働した学校運営を推進する。

支援を必要とするこどもの多様なニーズに応じた学びや支援の充実に向け、引き続き、まなびの教室や発達支援教室の増設を図るほか、外国人児童生徒への日本語と母語の両輪による支援や各種支援員・指導員等の配置、ICTの活用などにより、個別最適な学びの機会を確保する。

【重要業績評価指標 (KPI)】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)導入校数	校	24	50	72	96	120	144
		(2019年度)	51	76	130	140	—
保護者や地域の人材を活用した授業を実施した教員の割合	%	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	90.0
		(2019年度)	80.4	76.9	82.1	82.8	—
自分が住んでいる地域が好きな子どもの割合	%	91.5	92.0	93.0	94.0	95.0	95.0
		(2019年度)	92.7	92.6	92.8	93.3	—
校内まなびの教室の設置及び指導員の配置	箇所	15	20	25	25	30	30
		(2019年度末)	20	25	30	45	—
校外まなびの教室の設置	箇所	8	8	9	10	10	10
		(2019年度末)	8	9	9	10	—
個別対応専任指導員の配置・派遣	人工	3	5	5	6	7	7
		(2019年度末)	5	5	5	5	—
発達支援教室(1教室につき1人の支援員を配置)	教室	92	97	102	107	112	117
		(2019年度)	97	101	107	112	—

Ⅱ-2「創造都市・浜松」を担う次代の育成【こども家庭部】

(2) 地域の力を活かした市民総がかりのひとづくり

◆学校・家庭・地域の連携による学校づくり

市立幼稚園特色化推進事業

【評価】

幼稚園、家庭及び地域が連携を図り、伝統文化や自然体験など地域の特色を生かした園づくりに取り組んだ。

また、コロナ禍においては、規模を縮小しながらも、各園が活動を工夫して取組を継続した。こうした活動により、こどもたちが地域に見守られている安心感や地域に対する愛着を育むことができた。

【今後の方針】

地域資源を活用した体験活動など、各園ならではの特色ある園づくりを行うことで、こどもたちが地域への愛着や誇りを持ち、将来に夢や希望を持つことができるよう、幼稚園、家庭及び地域が連携・協働して、地域全体でこどもたちの育ちを支えていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅱ-2「創造都市・浜松」を担う次代の育成【企画調整部】

(2) 地域の力を活かした市民総がかりのひとづくり

◆子ども一人ひとりに応じた支援体制の整備

多文化共生推進事業

【評価】

外国人のこどもの就学促進のため積極的に取り組んでいるが、対象となる児童生徒の増加にとどまらず、定住化や多国籍化が進展し、就学に向けて抱える課題が多様化かつ複雑化している。

指標である不就学ゼロ状態を維持するためには、よりきめ細かな支援の継続実施が必要である。

【今後の方針】

教育委員会や外国人学校等の関係機関と引き続き連携し、就学に課題を抱える外国人のこどもの学びの場の確保や、教育機関等への就学につなげる支援に継続して取り組み、外国人のこどもの不就学を生まない取組（浜松モデル）を推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人の子どもの不就学者数	人	2	0	0	0	0	0
		(2019年度)	2	1	4	2	—

基本目標

Ⅲ「持続可能で創造性あふれるまち」

評価結果

B

指標達成率の平均

84%

★評価基準： 指標達成率100%…A、60%以上100%未満…B、60%未満…C

No.	施策	指標達成率	評価
1(1)ア	地域防災の推進	95%	B
2(1)ア	多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出	100%	A
2(2)ア	ブランドの確立	61%	B
2(2)イ	国内外からの交流人口の拡大	46%	C
2(2)ウ	ふるさと納税の受入強化	81%	B
2(3)ア	まちなかのにぎわい創出	75%	B
2(3)イ	中山間地域のにぎわい創出	98%	B
3(1)ア	市民協働のまちづくりの推進	—	—
3(1)イ	多様性を生かした市民主体の地域社会の形成	81%	B
3(2)ア	医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供	100%	A
3(2)イ	70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の社会参加支援）	80%	B
3(3)ア	市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進	77%	B
4(1)ア	集約型の都市づくり	100%	A
4(1)イ	拠点を結ぶ交通ネットワークの形成	—	—
5(1)ア	持続可能な市民サービス提供体制の構築	—	—
5(1)イ	広域連携の推進	100%	A
5(2)ア	SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進	79%	B
5(2)イ	デジタルファーストによる都市づくり	100%	A
5(2)ウ	温室効果ガス排出削減	—	—

基本目標 Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【危機管理監】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

防災計画等整備事業

市民防災意識啓発事業

防災施設・資機材管理事業

防災学習センター管理運営事業

【評価】

防潮堤の整備効果や津波避難施設の確保など津波からの被害低減に取り組むとともに、地域防災リーダー研修や、災害ボランティアコーディネーター養成講座など、地域防災力の向上に取り組んだ結果、「自分の命は自分で守らなくてははいけない」と思う人の割合は、約75%の高い値を維持して推移したものの、目標値の達成には至らなかった。

これは、新型コロナウイルスの影響により出前講座や防災訓練などへの参加者の低下により、出前講座や防災訓練などに参加する機会の少ない若い世代の方々や、災害の恐れが比較的少ない地域の方々に対して、災害を自分事として捉える意識を醸成することが十分に行えなかったことが影響したと考える。

【今後の方針】

本市は、迅速かつ的確な避難情報の発信・伝達を行うとともに、災害を自分事として捉えられるよう次世代の担い手になる小中学生や親世代、逃げ遅れの可能性が高い高齢者に対し、本市防災学習センターや出前講座などで、地域のリスクや避難情報を理解して適時適切な避難行動をとり、命が守れるよう啓発活動を推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合	%	76.4	80	80.5	81.0	81.5	82.0
		(2014年度)	75	74.2	74.1	74.4	—

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【土木部】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

浸水対策支援事業	急傾斜対策事業	橋りょう耐震補強事業
市道整備事業	国県道整備事業	スマートインターチェンジ関連整備事業
三遠南信自動車道関連整備事業	交通安全施設等整備・修繕事業	道路照明灯 LED 化更新事業
道路維持修繕事業	道路防災事業	河川管理対策事業
河川維持修繕事業	河川改良事業	都市下水路整備事業
水防活動事業	土木施設災害復旧事業	

【評価】

激甚化・頻発化する風水害、切迫する南海トラフ巨大地震、土木インフラ等の老朽化に対応するため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により、道路維持修繕（メンテナンス）や道路防災、道路整備、河川改良など各分野の対策を着実に実施した。また、交通安全では、事故削減対策やAIを活用した危険箇所予測マップによる啓発など、ソフト・ハード両面から安全・安心なまちづくりを推進した。KPIでは、緊急輸送路等の橋りょう耐震対策に加え、災害対応拠点等までのラストワンマイルを含んだ道路ネットワークの強靱化を推進し、災害に強いまちづくりを推進した。

【今後の方針】

激甚化・頻発化する風水害、発生が予想される南海トラフ巨大地震から市民の命と暮らしを守る災害に強く、安全で快適な社会基盤の構築と強化のため、国土強靱化に資する国が施行する道路事業の促進や緊急輸送道路等、災害に強い道路ネットワークの構築と機能強化を進める。

緊急輸送道路など重要道路の道路斜面对策や橋りょう耐震化対策及びインフラ老朽化対策を推進し、橋りょう、トンネルなどのインフラ老朽化対策については、「事後保全型」から「予防保全型」への転換を図り、持続可能な維持管理を実現させ、市民の安全・安心を確保するとともに、災害支援活動を支え、信頼性・安定性が高く、安全で安心して利用できる道路整備を進める。

また、市民生活に身近な道路施設等に関する要望や損傷箇所の通報など、市民協働による維持管理を迅速かつ着実に実施する。

幹線道路や生活道路における交通事故の現状を踏まえ、事故危険箇所や事故多発交差点等の事故防止対策の推進。通学路等の安全対策では、「通学路交通安全プログラム」に基づく、通学路の整備要望や地域の意見を踏まえ、面的な安全対策を関係機関や庁内関係部署と連携して推進するとともに、AIなど、ビッグデータを活用した交通事故分析により、優先度を踏まえた効果的な安全対策を推進するとともに、地域や関係団体等と連携した交通安全教育を推進し、交通安全意識の高揚を図るなど、ハード・ソフト両面の対策を推進する。

激甚化、頻発化する水災害を踏まえ、国や県等をはじめとする流域のあらゆる関係者が協働して、ハード・ソフト一体となった「流域治水」の取組を推進し、河川改修や雨水貯留施設等の整備を加速化するとともに、点検や巡視結果を踏まえた適切な維持管理により、浸水被害の軽減を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
緊急輸送道路等の橋りょう耐震対策実施率	%	60.9	62.1	62.7	64.0	66.5	70.8
		(2019年度)	60.9	64.0	68.9	75.2	—

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【都市整備部 花みどり担当】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

公園整備事業

公園施設改良事業

【評価】

防災機能を有する公園として、避難地となる広場を備えた2公園の整備を進めた。浜松城公園鹿谷地区では、公園用地を取得し、公園整備を進めた。東部やすらぎ公園では、公園用地の取得を進めるとともに公園整備を進め、一部を開設した。

避難地として利用できる指定管理公園等において、エネルギー使用を削減できる照明灯のLED化を進めた。指定管理公園（浜松城公園ほか14公園）については令和5年度にLED化が完了している。

【今後の方針】

引き続き、防災機能を有する2公園の整備を進める。浜松城公園鹿谷地区は、避難地となる広場等を備えた公園整備を進めていく。東部やすらぎ公園は、公園用地の取得を進めるとともに公園整備を実施していく。

引き続き、指定管理公園以外の都市公園においてLED化を進める。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【上下水道部】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

管路耐震化事業

【評価】

水道事業は、基幹管路耐震化事業に着手した 2011 年度から 2023 年度までに 116 kmの耐震化を行い、基幹管路耐震適合率は対象延長の 8 割まで進捗している。

下水道事業は、地震対策事業において基幹管きよの耐震診断及び対策を行った結果、基幹管路の耐震化適合率は概ね計画通り推移している。

【今後の方針】

上下水道施設の耐震化、老朽管更新などの強靱化や、雨水貯留施設の整備などの雨水対策による防災・減災を重点的に実施する。

災害時に上下水道一体で効率的かつ効果的に対応する体制を整備する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり【都市整備部】

(1) 災害に強いまちづくりの推進

◆地域防災の推進

災害対策事業

【評価】

静岡県第4次被害想定第二次報告書で示された建設型応急仮設住宅必要戸数（19,896戸）に対し、整備済台帳は2023年度末時点で19,021戸（充足率95.6%）である。

【今後の方針】

2024年度末には、必要戸数が確保できる見込みのため台帳整備事業は終了。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【市民部 文化振興担当】

(1) 創造都市の推進

◆多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出

創造都市推進事業 音楽文化発信・交流事業

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

文化財調査顕彰事業	文化財施設公開事業	文化財活用地域連携事業
埋蔵文化財調査事業	博物館運営事業	遺跡公園運営事業
博物館展示会開催事業	美術館運営事業	美術館展覧会開催事業
秋野不矩美術館管理運営事業	秋野不矩美術館展覧会開催事業	

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆まちなかのにぎわい創出

創造都市推進事業

【評価】

浜松国際ピアノコンクール、サウンドデザインフェスティバルの開催、無形民俗文化財の公演事業や博物館、美術館での特別展や展覧会の開催等により、交流人口・関係人口の拡大に寄与した。

【今後の方針】

今後も「音楽の都・浜松」、音楽創造都市浜松を世界に向けて発信するとともに、文化・芸術・歴史に触れる機会を提供し、文化観光など地域の活力・魅力の向上、新たな交流人口・関係人口の増加に努める。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
音楽を始めとする市の文化事業に対する満足度	%	41.5	39	40	41	42	43
		(2019年度)	42	44.9	35.2	45	—

Ⅲ-2 にぎわいの創出【産業部】

(1) 創造都市の推進

◆多様な文化や創造的な活動に触れる機会の創出

地場産業振興支援事業

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆まちなかのにぎわい創出

中心市街地活性化施策調査研究事業

商店街振興対策事業

都心機能集積支援事業

【評価】

にぎわい創出の拠点となる公共施設「新川モール」を2022年4月開設するとともに、都心へのオフィス進出支援やエリアリノベーションの推進、空き店舗対策など、まちなかのにぎわい創出に向けた事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた歩行量の減少や空き店舗の増加は回復途上にあるが、にぎわい創出に向けた環境整備が進んだと評価している。

【今後の方針】

中心市街地活性化に向け策定するビジョンに基づき、中心市街地活性化に向けた各種取組を官民が連携して実施する体制を構築するとともに、空き店舗や空き地など低未利用地の解消に向けた支援やICT企業等のオフィス誘致を推進し、中心市街地の活性化を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
歩行者通行量(休日・25地点)	人	190,833	200,000	210,000	220,000	230,000	241,000
		(2015~2019平均)	150,688	139,494	150,958	172,107	—
歩行者通行量(平日・25地点)	人	135,972	138,000	140,000	142,000	144,000	146,500
		(2010~2019平均)	101,129	87,261	114,088	110,894	—

Ⅲ-2 にぎわいの創出【産業部 観光・ブランド振興担当】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆ブランドの確立

シティプロモーション事業 観光宣伝事業

◆国内外からの交流人口の拡大

観光客誘致事業 観光宣伝事業 海外戦略推進事業
 浜松・浜名湖 DMO 形成支援事業 MICE 推進事業

◆ふるさと納税の受入強化

ふるさと納税事業

【評価】

コロナ禍の長期化による観光交流客数の大幅な減少やプロモーション機会の喪失など厳しい環境が続いたが、デジタルマーケティングを活用したプロモーションや WEB 商談会・セミナーの開催、多言語 WEB サイトの開設などデジタル技術を積極的に活用し、浜松・浜名湖ブランドの確立に向けた戦略的なプロモーションや観光誘客・受入環境の整備を実施した。

【今後の方針】

引き続き、デジタル技術などを活用しターゲットに合わせた戦略的なプロモーションを展開する。官民連携による高付加価値旅行者をはじめとするインバウンドなど観光客の受入体制整備、国内外からの観光誘客、ふるさと納税を通じた本市の魅力発信等の取り組みを進めることで、交流人口・関係人口の拡大を図っていく。

【重要業績評価指標 (KPI)】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市区町村別認知度ランキング (全国順位)	位	28	25	23	20	17	15
		(2019 年度)	31	44	32	33	—
市区町村別魅力度ランキング (全国順位)	位	44	40	38	35	32	30
		(2019 年度)	45	59	50	44	—
全国規模の撮影支援件数	件	92	96	100	105	110	115
		(2019 年度)	94	91	109	114	—
観光交流客数	千人	18,809	20,400	20,800	21,200	21,600	22,000
		(2018 年度)	9,940	11,890	14,452	17,493	—
外国人延べ宿泊者数	千人	372	370	380	390	400	410
		(2018 年度)	5	10	32	111	—
欧米豪からの外国人延べ宿泊者数	千人	33	37	38	39	40	41
		(2018 年度)	1	2	11	26	—
寄附件数	件	49,370	100,000	125,000	150,000	175,000	200,000
		(2018 年度)	111,115	131,307	126,110	142,769	—

Ⅲ-2 にぎわいの創出【企画調整部】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆ブランドの確立

首都圏情報収集発信事業

【評価】

やらまいか交流会の開催や各種イベントへの参加によって、首都圏において浜松・浜名湖ブランドをPRするとともに首都圏在住者が浜松のひと・もの・しごとに触れる機会を創出することができた。また、首都圏在住の若者との交流を目的とした若者交流会の開催や浜松サポーターズクラブ会員に対しての定期的なメールマガジン配信によって、関係人口の確保につながった。

【今後の方針】

各種事業の実施により、浜松は首都圏在住者にとっても魅力的な街であることが分かった。引き続き、やらまいか交流会の開催や各種イベントへの参加によってシティプロモーションに努めるとともに、若者交流会の開催やメールマガジンの配信を継続することで、交流人口・関係人口の拡大を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【都市整備部 花みどり担当】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

舘山寺総合公園運営事業 公園整備事業

【評価】

はままつフラワーパークは2020年に開園50周年を迎え、NEXT50事業等を実施したが、新型コロナウイルスの影響もあり、交流人口の拡大は困難であった。2024年の浜名湖花博開催に向けて、新たな庭園などの施設整備を進めたところ、花博全体では100万人を超え、フラワーパーク会場では目標40万人を上回る49.8万人の来園者を迎え、花と緑のまち・浜松の魅力を発信することができた。

浜松城公園鹿谷地区では、公園用地を取得し、敷地造成、園路広場などの公園整備を進めた。遠州灘海浜公園篠原地区では、トビオ南北区域の基盤整備を行うとともに、県に整備を要望している多目的ドーム型スタジアムの早期実現に向け、その規模や構造等について県と協議を行った。

【今後の方針】

花博開催理念の継承や花の名所等を巡るガーデンツーリズムを通じ、花と緑のまち・浜松の魅力を発信し、自然と共生した持続可能で幸福感深まる市民生活の創造を進める。

浜松城公園は、引き続き鹿谷地区の公園整備を進めるとともに、旧元城小学校跡地の公園整備に向けて検討を行う。遠州灘海浜公園篠原地区は、引き続き多目的ドーム型スタジアムの早期実現に向け県との連携を強化するとともに、トビオ南北区域の公園整備を進めていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【市民部 スポーツ振興担当】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

大型スポーツイベント等誘致事業 ビーチ・マリンスポーツ推進事業

【評価】

オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿の受け入れや、プロスポーツチーム公式戦の誘致など、都市の魅力向上や交流人口の拡大に資する取組を行った。また、江之島ビーチコート施設の施設規模等の検討や事業者公募作業、三ヶ日マリンスポーツ施設の地質調査や環境影響調査を行った。

【今後の方針】

プロスポーツチームとの連携による観戦機会の創出や、国際大会・全国大会の積極的な誘致を進める。また、ビーチマリンスポーツの聖地として、江之島ビーチコートの整備や運営に係る事業者選定、三ヶ日マリンスポーツ施設の建設に向けた準備を進め、スポーツによる「まちを元気にする力」を最大限に活かし、にぎわいを創出する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【都市整備部】

(2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口・関係人口の拡大

◆国内外からの交流人口の拡大

天竜浜名湖鉄道経営支援事業

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆まちなかのにぎわい創出

市街地再開発組合支援事業

【評価】

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、公共交通の利用者数は回復しつつあるものの、コロナ禍前までは戻っていない。

旭・板屋A地区は事業完了し、中心市街地の居住人口は、目標 13,050 人に対して実績 12,756 人であるものの、2020 年の実績と比べて約 5%増加した。市街地再開発事業と関連公共施設整備等を行ったことにより、中心市街地居住人口が増加し、歩道機能の増進と歩行空間における快適性の向上を図ることができた。

【今後の方針】

引き続き、県や沿線市町、交通事業者と連携し、利便性向上を図る。

今後も、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業を計画する新規地区に係る相談及び指導を行なうと共に、中心市街地の居住人口増加や歩行空間等の快適性の向上に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-2 にぎわいの創出【市民部】

(3) 地域の特性を活かした魅力づくり

◆中山間地域のにぎわい創出

市内間交流事業	居住促進事業	中山間地域まちづくり事業
中山間地域コミュニティビジネス起業資金貸付事業		生活支援事業

【評価】

市内間交流事業を4年間で127回実施し、都市部と中山間地域との交流を促進したほか、中山間地域への居住支援により162人が地域の担い手として移住した。また、中山間地域まちづくり事業を4件採択し、事業実施団体に寄り添った支援を通じて、中山間地域の課題解決を図るとともに、浜松山里いきいき応援隊員を全6地域に配置し、地域の暮らしを支援した。

【今後の方針】

都市部と中山間地域における住民同士の交流機会を創出するとともに、中山間地域への関心を高め、中山間地域への移住を促進する。また、中山間地域の課題解決や振興に向けて、地域主体によるまちづくりを支援するとともに、浜松山里いきいき応援隊の配置を通じて地域の暮らしを支え、地域力の維持・向上を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市が実施する交流事業の回数	回	125	155	185	215	245	275
		2019年度末	142	175	211	252	—
市の制度を利用して中山間地域へ移住した人数	人	111	142	174	207	241	276
		2019年度末	144	165	236	273	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【市民部】

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

◆市民協働のまちづくりの推進

市民協働推進事業 自治会等コミュニティ振興事業 安全で安心なまちづくり支援事業
 市民安全対策事業 空家対策事業

◆多様性を生かした市民主体の地域社会の形成

ユニバーサルデザイン推進事業 男女共同参画推進事業

【評価】

将来のまちづくりの担い手となる人材の育成やコミュニティ担当職員を中心とした地域の状況に応じたコミュニティ支援、地域における防犯活動の支援などを通じて、地域コミュニティ活動の活性化に取り組むとともに、ユニバーサルデザインや男女共同参画の推進により、年齢や性別、国籍などにかかわらず、誰もが安全・安心・快適に暮らせる社会の実現に向けた取組を実施することができた。

【今後の方針】

まちづくりを担う人材の育成や多様な主体のマッチング、自治会等をはじめとするコミュニティ支援や地域防犯活動の支援により、市民が安心して暮らすことができるまちを目指すとともに、個性や多様性を認め合い、互いに尊重し合うことができる社会の実現を目指し、自身が望む適材適所で活躍でき、様々な分野で平等に参画できるよう意識の醸成や環境整備に取り組めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市と多様な主体との協働 件数	件	181	182	184	186	200	220
		2018年度	129	146	162	179	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【市民部 文化振興担当】

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

◆市民協働のまちづくりの推進

生涯学習機会提供事業

【評価】

市内全6大学と連携し、協働センター等を会場に、大学生自らが講師となって講座を開催することで、学習機会を提供し、大学生と市民とが互いに自己の学びを深めることに寄与した。

【今後の方針】

今後も、市内全6大学と連携することで大学生の学習成果を発揮する機会の充実を図り、地域課題の解決に向けた学習を進めていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【企画調整部】

(1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

◆多様性を生かした市民主体の地域社会の形成

多文化共生推進事業

国際交流連携推進事業

【評価】

2021年度から開始した外国人材活躍宣言事業所認定制度や2023年度から再編した多文化創造活動促進事業などにより、外国人の文化的多様性や能力を生かした取組が進み、地域社会の活性化や相互交流が進んだ。指標の一つである共生社会づくりの市民満足度も目標値に近づいている。

【今後の方針】

引き続き、多様な主体との協働・連携により、外国人の文化的多様性や能力を都市の活力や発展につなげる取組を推進する。また、国際交流・協力、国際理解、多文化共生に取り組む市民団体等への活動助成を継続し、地域における国際交流の促進を図ることで市民満足度の達成に向けた意識醸成を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりの市民満足度	%	9.4	16	18	20	20	20
		(2019年度)	13.8	14.9	13.2	18.8	
世界の人々との活発な市民交流の取組の市民満足度	%	11.1	18	20	20	22	25
		(2019年度)	19.1	19.6	14.6	15.3	

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【健康福祉部】

(2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現

◆医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供

認知症施策推進事業 障害者（児）施設整備費助成事 介護保険事業
 障害者（児）自立支援給付事業 障害者（児）地域生活支援事業 障害者（児）生活支援事業
 こころの健康づくり推進事業

◆70歳現役都市・浜松の推進（高齢者の社会参加支援）

介護保険事業

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

介護保険事業

【評価】

認知症サポーター養成人数は、コロナ禍においては計画値を下回る状況が続いていたが、2023年度はコロナ明けの反動で目標を大幅に上回る事ができた。

障がいのある人が地域で希望を持って安心して生活を送ることができるよう、個々の状況に応じた障害福祉サービスを提供するとともに、障がいに関する社会の理解を進めるための広報・啓発活動に取り組んだ。

ささえあいポイント事業の登録者数は微減が続いている。年齢構成を見ると、特に70から74歳の減少が大きい。65歳以降も就労を継続する人が多いことが理由の一つとして考えられる。

ロコモーショントレーニング事業への参加者数は、コロナ禍においても漸増しているが、計画値には届かない状態が続いている。参加者が伸びない理由としては、活動のマンネリ化も指摘されている。

【今後の方針】

認知症サポーターの養成については、認知症の人を正しく理解し、認知症に対する誤解と偏見を解消し、認知症の人や家族の応援者を増やすため、引き続き講座の開催を行っていく。

障がいのある人が地域で安心して生活を送るため、必要な支援を受けられるよう特性に応じたサービス提供体制や相談支援体制の充実を図る。また、ライフステージに応じた切れ目ない支援のため、関係機関との連携を図る。

ささえあいポイント事業については、高齢者の社会参加を促進しボランティア活動を通じた地域貢献意識を育てるため、引き続き活動への参加について広く周知を行っていく。

ロコモーショントレーニング事業については、新規の参加について周知を図るとともに、既存団体の活動が継続されるよう支援していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
認知症サポーター養成人数	人	4,118	4,700	3,500	3,600	3,700	3,450
		(2018年度)	2,393	2,863	3,334	4,157	—
障がい者グループホームの定員	人	429	475	589	662	735	735
		(2018年度)	591	664	868	876	—
ささえあいポイント事業のボランティア登録人数	人	3,849	5,000	4,550	4,800	5,050	4,300
		(2018年度)	4,176	4,129	4,088	4,079	—
ロコモーショントレーニング事業への参加者数	人	14,438	15,800	16,600	17,400	18,200	15,500
		(2018年度)	13,142	13,426	14,052	14,164	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【健康福祉部 医療担当】

(2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現

◆医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供

ひきこもり対策推進事業

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

健康支援事業

介護保険事業

【評価】

ひきこもり対策については、本人・家族への対応を継続的に実施して、個々の状況に応じた支援を実施できている。居場所作り、社会体験の場の提供、スキルアップのための活動等も開催し、個々の状態、能力に応じた社会的自立の促進のための事業を実施することができた。

健康はままつ21に基づき、生活習慣病の発症と重症化予防に向けて、がん検診に対する意識の低い若年層の受診率向上を図るため、LINEを活用した受診勧奨に取り組んだ。また、関係団体や企業等と連携し、野菜摂取状況を見える化することで、若い世代の食に関する関心の向上を図り、糖尿病等の生活習慣病予防につなげる「野菜摂取量増加推進事業」に取り組むとともに、浜松ウエルネス官民連携社会実証事業で一定の成果がみられたデジタルを活用した血糖コントロール事業を市民サービスの一環として事業化した。こうした取り組みから、市民の健康意識の向上や健康づくりの実践に繋げ、健康を守り支える環境整備を推進することにより、健康寿命は、男女ともに延伸し計画値を上回った。

【今後の方針】

ひきこもり対策については、本人・家族へ個々の状況に応じた継続的な支援を行う。特に当事者支援に関しては、個別相談対応の他、グループ活動等のメニューの検討・再構築も随時行いながら、参加しやすい環境を整え、本人の状態、能力に応じた社会的自立の促進を図っていく。

健康寿命の更なる延伸に向けた市民主体の健康づくり、介護予防、生活習慣病の発症、重症化予防を推進するとともに、健康は一生涯継続し、次世代に受け継がれるものとして捉え、ライフコースアプローチの視点で、包括的な切れ目のない支援を一層推進する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
健康寿命の延伸	歳	男 73.19	男 73.58	男 73.68	男 73.78	男 73.88	男 73.98
		女 76.19	女 76.54	女 76.64	女 76.74	女 76.84	女 76.94
		(2016年度)	国未調査	男 73.74 女 76.65	国未調査	国未調査	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【ウエルネス推進事業本部】

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

浜松ウエルネスプロジェクト事業

【評価】

2023年4月1日にウエルネス推進事業本部が新設され、官民連携プラットフォームを核に浜松ウエルネスプロジェクトを推進し、市民の健康増進、地域企業の健康経営の促進、ヘルスケア産業の創出に向けた取組の更なる強化・拡充に取り組んだ。

市民の健康増進では、2022年10月にヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」の運用を開始し、市民の健康意識・行動変容を促した。

地域企業の健康経営の促進では、協会けんぽや地域企業等との連携により周知・啓発を図ったことにより、市内の健康経営優良法人認定企業数は年々増加し184者となった。

ヘルスケア産業の創出では、地域内外の企業が参画する官民連携プラットフォーム「浜松ウエルネス・ラボ」において、認知機能の改善、嗅覚とストレス状態との関連性など様々な社会実証事業を展開した。なかでも本市の課題である糖尿病予備群を対象とした血糖値改善の実証事業は、実装へと進展が図られるとともに、事業成果を活用した市の事業化につながった。

こうした取組を通じて、当プロジェクト事業は着実に進展していると評価している。

【今後の方針】

引き続きウエルネスシティ（予防・健幸都市）の実現を目指して浜松ウエルネスプロジェクトを推進し、官民連携プラットフォームの取組により、市民の予防・健康意識の啓発を通じた行動変容、健康優良法人数の増加、官民及び民間企業相互の協業やマッチング機会を創出し、健康寿命のさらなる延伸に取り組んでいく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
健康寿命	歳	男 72.86	男 73.58	男 73.68	男 73.78	男 73.88	男 73.98
		女 76.82	女 76.54	女 76.64	女 76.74	女 76.84	女 76.94
		2013	国未調査	男 73.74 女 76.65	国未調査	国未調査	—

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成【市民部 スポーツ振興担当】

(3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

◆市民一人ひとりの予防や健康づくりの推進

スポーツ普及・活性化事業

【評価】

スポーツの「する」「みる」「ささえる」につながるイベントの開催や支援、人材育成のための人材派遣や研修等を実施するなど、市民の健康づくりに寄与した。

【今後の方針】

引き続き、「する」「みる」「ささえる」スポーツを推進するため、異分野融合による地域スポーツを支える新たな体制整備を検討する。また、市民一人ひとりのスポーツ実施率の向上に資するため、地域団体や競技団体との連携を強化し、スポーツ政策を推進していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり【都市整備部】

(1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成

◆集約型の都市づくり

都市計画策定事業	市街地再開発組合支援事業	高塚駅北第二公共団地区画整理事業
組合等区画整理支援事業	市営住宅管理事業	市営住宅ストック総合改善事業
住まいづくり推進事業	高齢者向け優良賃貸住宅助成事業	

◆拠点を結ぶ交通ネットワークの形成

交通計画推進事業	公共交通推進事業	高塚駅北第二公共団地区画整理事業
組合等区画整理支援事業	浜北中央北地区公共施設整備事業	

【評価】

立地適正化計画の内容を反映した新・都市計画マスタープランを策定するとともに、拠点性の向上を目指し、居住及び居住関連施設の立地誘導を図る用途地域の変更（22ha）等の取り組みを行った。目標指標である居住誘導区域内人口密度は、目標値 61.5 人/ha に対し、2023 年度実績は 60.6 人/ha であった。居住誘導区域の見直し等により若干減少しているが、一定程度の維持ができておりと評価している。

組合等区画整理事業支援事業の進捗率は、事業進捗率 70%である。2021 年度より浜北中央北地区（組合施行）、2022 年度より高塚駅北第二地区（公共施行）の土地区画整理事業を着手した。土地区画整理事業と市街地再開発事業等の推進により、高度利用と都市機能の更新、都心居住の促進を図ることができた。

住宅使用料の収納率は、計画値 98.24%に対し実績値 99.69%と上回っている。既存ストックの活用に関しては、浜松市公営住宅等長寿命化計画どおり工事を実施した。三世同居等や居住誘導区域内への移転に伴う住宅取得等への支援を実施したが、市政全般としてのこどもを産み育てやすい環境に対する満足度及び住んでいる地域の住みやすさに対する満足度ともに目標値に達していない。住まいづくり推進事業は指標を市政全般の満足度としているため、目標の達成は難しいが、事業により居住誘導区域内の人口が増えているため一定程度の成果は出ていると評価している。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、公共交通の利用者数は回復しつつあるものの、コロナ禍前までは戻っていない。遠鉄八幡駅のバリアフリー化は、市内中心部の工事のため関係者が多岐にわたり、その調整に時間を要したため事業進捗が遅れた。（2023 目標 100%→83%）

【今後の方針】

拠点ネットワーク型都市構造の形成を目指し、引き続き土地利用計画制度の運用方針の策定や誘導施策の実施などの各種取組により、拠点性の向上と居住誘導区域内人口密度の維持を図り、集約型の都市づくりを推進する。

また、今後も、拠点ネットワーク型都市構造を実現する拠点形成を目指し、市街地再開発事業や土地区画整理事業を推進していく。

住宅施策については、引続き初期滞納者への催告を強化し高収納率を維持していく。また、公営住宅等長寿命化計画に基づき整備を計画的に行う。住まいづくり推進事業は、子育て世代が安心してこどもを産み育てやすい住生活の実現に向け補助金の見直しを実施していく。

交通政策についても、引き続き、交通事業者と連携し、公共交通の利便性を向上し、利用者数増を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
居住誘導区域内人口密度	人 /ha	61.5	61.5	61.5	61.5	61.5	61.5
		(2018年度)	61.0	60.7	60.6	60.6	
居住及び居住関連施設の立地誘導を図る用途地域の変更	ha	0	17	22	22	22	22
		(2018年度)	17	22	22	22	
主要な駅、バス停の利用者	千人	27,380	約 27,200	約 27,200	約 27,200	約 27,200	約 27,200
		(2019年度)	18,410	19,850	22,860	2025.5頃確定	

Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり【土木部】

(1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成

◆拠点を結ぶ交通ネットワークの形成

天竜川駅周辺整備事業

都市計画道路整備事業

【評価】

広大な市域のネットワーク化や市街化の進展、将来の都市構造の形成等に対応するため、都市計画道路では、植松伊佐地線（野口～山下工区）、飯田鴨江線（名塚工区）、池川富塚線、高林芳川線、美園線等の用地取得や物件移転補償、道路改良工事等に取り組んだ。天竜川駅南口アクセス道路の整備が完了し、2024年3月19日に供用を開始した。

【今後の方針】

市民ニーズを踏まえ、緊急性、必要性を判断しつつ、人・自転車・自動車など、様々な道路利用者が安全で快適に移動できる道路整備の推進により、豊かな生活と地域の経済発展に寄与する道路ネットワークの形成を推進する。

引き続き、都市計画道路に係る用地取得や物件移転補償、道路整備工事等を進め、都心や地域生活拠点間の道路ネットワーク機能の強化により、利便性向上と移動円滑化を図るため、早期の供用開始を目指す。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
主要な駅、バス停の利用者	千人	27,380	約27,200	約27,200	約27,200	約27,200	約27,200
	(2019年度)	18,410	19,850	22,860	2025.5頃確定	—	

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【財務部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

アセットマネジメント推進事業 財政状況公表事業 公有財産維持管理事業
 借地解消事業 公共建築物長寿命化推進事業

【評価】

規律ある財政運営と必要な投資を両立しつつ、資産の総合的・総括的な管理と施設の長寿命化を推進し、効果的かつ効果的に資産を活用するとともに、保有財産の売却、クラウドファンディングの活用などにより新たな財源の確保に努めた。

重要業績評価指標として設定したタテモノ資産・インフラ資産充足率は、2023年度の実績値が計画値をそれぞれ上回る結果となっているが、昨今の建設物価の急激な上昇を算定の基礎である将来の改修・更新経費の見込みに反映できていないことが課題となっている。

【今後の方針】

適正な債務管理と必要な投資の両立によるしなやかな財政運営を行うとともに、保有財産・公共施設の最適化・長寿命化及び民間活力の導入を進める。

タテモノ資産・インフラ資産充足率については、令和7年度からの次期公共施設等総合管理計画において、充足率の算定に物価変動を反映するなど見直しを図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (2015 年度)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
タテモノ資産・インフラ 資産充足率	%	タテモノ資産	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0
		64.1	82.2	77.5	80.3	84.0	
		インフラ資産	85.0	85.0	85.0	85.0	90.0
		52.7	95.6	100.4	106.8	107.4	

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【市民部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

区再編推進事業

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進

消費生活推進事業

【評価】

市議会特別委員会において区再編の協議を進めるとともに、パブリック・コメントや行政区画等審議会、区協議会への諮問・答申を経て、2021年5月に決定したスケジュールどおり、2023年2月に区設置等条例が議決され、2024年1月に新たな区へ移行した。

フェアトレードに関する広報展の開催や出前講座の実施、大学生との協働による商品の販促、学校給食でのフェアトレード食材の使用など、持続可能な社会の実現に向けて、エシカル消費のひとつであるフェアトレードの普及・促進に取り組み、フェアトレードタウンとして2回目の更新認定を受けた。

【今後の方針】

行政区再編については、2023年度をもって事業完了。

様々なステークホルダーとの協働により、学校、地域、職域において、広く消費者教育を推進するため連携を強化する。また、より効果的な啓発方法を検討し、イベント実施を行う。引き続き、出前講座やパネル展示を行い、フェアトレードを含むエシカル消費の啓発に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
フェアトレードに関する 認知度	%	44.1	53.3	56.6	60.0	60.0	60.0
		2018年度	30.2	44.5	44.5	39.7	—

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【企画調整部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

オープンデータプラットフォーム・ホームページ運用事業

◆広域連携の推進

広域行政推進事業

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆SDGs達成に向けたステークホルダーの活動推進

総合計画推進事業

【評価】

2021（令和3）年度に本格運用を開始したオープンデータプラットフォームを活用して、ホームページ、各種 SNS、LINE チャットボットなど市民が日常利用する媒体において情報発信を行うなど市民サービスの向上を図った。

三遠南信地域の広域連携では、三遠南信サミットの開催、三遠南信自動車道等の整備促進に係る要望活動、ホームページ等を通じた情報発信などを行った。

SDGs の達成に向け学校や企業等への出前講座を実施するとともに、シンポジウムを開催し、基調講演、浜松市 SDGs プラットフォーム会員による取組発表、マッチング交流会を実施することで SDGs の啓発及び取組の推進を図った。指標としている会員間交流イベント等の回数は、2023 年度は計画値に達しなかったものの、着実に連携の取組みが増えている。

【今後の方針】

引き続き、市民が日常利用する媒体で必要とする情報を受け取れるようにオープンデータプラットフォーム及び市公式ホームページを活用して、市民に対して効率的に市政情報を発信する。また、オープンデータの件数や内容を拡充するとともに、それらの周知や利活用促進についても注力していく。

東三河、遠州及び南信州の「三遠南信地域」における官民連携組織である「三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）」において、会長市として地域内の産官学金の連携と地域活性化に向けた取組を進め、さらなる体制強化を図る。

SDGs に対する市民や企業等の意識向上は進んでいるため、今後は、2030 年の SDGs 達成年限に向け、ステークホルダーの活動促進等を実施する。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時 点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
三遠南信地域における新規連携施設数（累計）	件	22	26	28	30	32	34
		(2019 年度末)	26	28	31	32	—
SDGs プラットフォーム会員による会員間交流イベント等の回数	回/ 年度	0	5	10	20	25	30
		(新規)	9	16	22	23	—

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【デジタル・スマートシティ推進部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

庁内情報基盤維持管理事業

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆デジタルファーストによる都市づくり

デジタル・スマートシティ推進事業

【評価】

持続可能な市民サービス提供体制の構築として、2022年度に汎用電子システムを導入し、市民の利便性向上並びに行政運営の効率化を図るため、行政手続きのオンライン化を進めた。また、光ファイバ網整備について、2021年度天竜区・浜名区（旧北区）における民間事業者による整備を支援した。

2021年3月に「デジタル・スマートシティ構想」「浜松版 MaaS 構想」「デジタル・マーケティング戦略」の2構想1戦略を策定するとともに、2022年7月には「浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例」を施行した。2020年4月に設置した官民連携の推進組織である浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォームにおいて、会員間や分野間の情報共有・連携を促進するとともに、データ連携基盤のユースケースの創出を目的とした「Hamamatsu ORI-Project」等により、2023年度までに100件の地域課題解決に向けた実証実験・実装を行った。また、MaaSの取組については、2023年度に庄内地区において公共交通空白地における持続可能な地域交通として「共助型地域交通」が導入された。

【今後の方針】

引き続き、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム等を中心に、AI・ICT等先端技術やデータ、ドローン等を活用し、官民共創により地域の課題解決や活性化を推進する。また、デジタルを活用した業務改革や行政データの可視化・分析を推進し、自治体と生産性向上とデジタル人材の育成・確保の強化を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
地域課題解決に向けた実証実験及び実装件数	件	0	7	37	75	95	115
		(新規)	27	55	75	100	-

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【総務部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

人事管理運営経費

経営改革推進事業

【評価】

2025年度までを計画期間とする定員適正化計画の下、職員配置の適正化に努めるとともに、行政区の再編や新たな行政需要に対応するために必要な組織の整備を行った。また、浜松市行政経営推進プラン【実施計画（前期）】に掲げた取組事項の進行管理を実施するとともに、2020年度より内部統制制度を導入するなど、組織や職員の適正化や行財政改革を着実に推進することで、持続可能な市民サービス提供体制の構築を進めることができた。

【今後の方針】

来年度から新たな基本計画や次期中期財政計画がスタートすることに合わせ、2025年度の見直し含めた5か年の新たな職員定数に関する計画を策定していく。策定に当たっては、防災・減災対策、自治体DXの推進、公共施設の整備更新や長寿命化対策のほか、定年年齢の段階的な引き上げに対応する一方、行政区再編や業務効率化による定数の見直しを行い、持続可能な都市経営を推進していく。また、浜松市行政経営推進プラン【実施計画（後期）】の進行管理を行い、行財政改革を推進するとともに、業務遂行上の重大なリスクをコントロールする内部統制に取り組み、市民から信頼される適切かつ効率的な市政運営を図っていく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【都市整備部】

(1) 効果的・効率的な市民サービスの提供

◆持続可能な市民サービス提供体制の構築

公共交通推進事業

【評価】

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、公共交通の利用者数は回復しつつあるものの、コロナ禍前までは戻っていない。

【今後の方針】

引き続き、交通事業者と連携し、公共交通の利便性を向上し、利用者数増を図る。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【環境部】

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆温室効果ガス排出削減

資源循環推進事業

【評価】

2023年度の家庭系・事業系のもえるごみの排出量は、187,907.5tで、2019年度211,747.2tに対して23,839.7t（約11.3%）の減量となっている。事業系のもえるごみは、2023年度64,245.2t、2019年度75,429.9t（11,184.7t減）であり、家庭系のもえるごみは、2023年度123,662.3t、2019年度136,321.3t（12,659.0t減）となっているため、事業系・家庭系ともにもえるごみの減量が進んだ。

【今後の方針】

ごみ減量目標の達成状況や社会経済情勢を総合的に判断し、家庭ごみ有料化の実施時期を検討する。また、市民や事業者のごみ減量・資源化に関する環境意識の向上や行動変容を促進するための各種施策に取り組む。なお、プラスチックごみについては、プラスチック資源循環促進法が2022年4月1日に施行されたことから、製品プラスチックの扱いについて検討していく。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
設定なし							

Ⅲ-5 持続可能な都市経営【カーボンニュートラル推進事業本部】

(2) 持続可能で多様性のある社会の実現

◆温室効果ガス排出削減

カーボンニュートラル推進事業 スマートシティ推進事業

【評価】

浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーの推進などを実施することにより、直近の確定値である2020年度の市域からの温室効果ガス排出量は4,302.5千t-CO₂となり、2019年度と比較して111.3千t-CO₂が削減された。

【今後の方針】

2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向け、市域一体となって、徹底した省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの最大限の導入、新技術・イノベーションの推進、二酸化炭素吸収源の確保に取り組む。

【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	単位	基準値 (時点)	2020	2021	2022	2023	2024
			計画値	計画値	計画値	計画値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
市域からの温室効果ガス 排出量	kt- CO ₂	4,413.8	-	4,147.3	3,991.9	3,836.5	3,681.0
		(2019年度)	4,302.5	2025年1月頃	2026年1月頃	2027年1月頃	-